# 校長室だより

R5.7.10　Vol.14

## 種々雑感

○　ブランコ周辺の草刈りをしていると、プール学習にきた４年の男の子が「校長先生！がんばってくださいね。」『おっと！やめようと思ってたけど、もうひとがんばりしよっと！』

○　下校時間、校長室から様子を見ていると、私を見つけて、「さようなら」とハイタッチをしにくる子供たち…可愛いが過ぎる←あ、正しい日本語ではありません。(笑)

○　「水泳部の練習！しんどいです！」「しんどくない練習で上達すると思う？」「…。」「がんばろうね。」「はい！」しんどさの向こうにある達成感を感じてほしいです。

## 内子・五十崎にて

内子町教育委員会から依頼があり、去る６月18日に舞台公演を行ってきました。公演後、観劇にきていた小学生たちを見送ることもでき、ポストコロナの動きを感じることができました。

見送りをしていると、何人かの子供たちから、「ありがとうございました！」そんな声をもらい「いえいえ、こちらこそ、見てくれてありがとう！」と会話を交わしている中、演者一人一人に「今日は楽しかったです。お疲れ様でした。」と声をかけてくる小学生がおり、びっくりしながらも感心しました。普段していないことがいきなりできることはありません。それも初対面の我々に。おそらく普段から挨拶がしっかりできている子供なんだろうなと感じました。

今年は学習の中でいろいろな方と触れ合い、関わり合う活動を本校は進めています。自然に挨拶ができる子供になってほしいですね。

## 四方山話令和5年度 ver. 其の十四(想像力)

舞台公演が終わった後、打ち上げがあります。が、今回は舞台が終わった途端、ものすごい疲労感に襲われ、家に帰ると、意識がとんでいました。『残念！』と思っていた矢先、演出家の先生から「雅人さん！ねぎらいたいのでサシで飲みませんか？」と連絡をいただきました。『えええ！演出家の先生とサシ飲み？緊張する…』この先生、東京在住で、普段はプロの役者さんの舞台を演出したり、指導したりしている、私から見ると、住んでいる世界がちょっと違う人。でもせっかくのお誘いだから行ってきました。「せ、先日は、お、おつかれさまれひぃた・・・。」緊張クライマックスの中、宴が始まったのですが、お酒が進むにつれ、緊張もほぐれ、口も滑らかになります。「先生！(←演出家)ちょっと聞いていいっすか？」歳は下なので、アルコールが入ると私の口調も若干変わります(笑)「今回の役作り、先生にこうしてもらえませんか？とダメ出しもらったので、私なりに人物の性格や背景にある歴史等々、結構考えて演じました。それにいいも悪いも言ってもらえないってどういうことですか？それを伝えるのも先生の仕事じゃないですか？」『あーまた偉そうなこと言ってるよ、俺…アルコールって怖い。(笑)』「雅人さん！それは伝わっていますよ。ただ、僕がダメを出さないというのは、それで OK ってことなんです。それと、それは他の役者さんも、**みんな一生懸命やってるんですよ。**それにいちいち反応していたら、指導の時間がいくらあっても足りなくなると思いません？」またまた穴があったら入りたい気持ちになりました。自分のことしか考えてない…。あ！これ、子供は違いますよ。子供は自分を認めてもらいたくて頑張っています。それを言葉にして、認め励まし、分かりやすく伝えるのが教師の仕事です。もちろん大人もそうなんですが、ときに大人はそれを想像力でカバーするものだと思うんです。「保護者からこんな意見が出てきたけど、なんでかな？」「先生にこんなこと言われたと子供が言ってるけど、どういうことかな？」**お互いが良識ある大人である**という地点を想像して関わる。とても大切だと思います。**だって教師も保護者もみんな一生懸命ですから。**

この歳で「先生」と呼べる人がいることは幸せなことだなと感じています。